



高病原性鳥インフルエンザ対策机上演習

家畜保健衛生所の鶏対策



京都府中丹西保健所弓削マリ子所長提供

(奈良県家畜保健衛生所)



内 容

- 1 発生時の防疫対応の概要
- 2 初動防疫
- 3 追跡調査
- 4 移動規制
- 5 発生農場の消毒
- 6 評価
- 7 殺処分・除糞等汚染物品処理
- 8 検診



発生時の防疫対応の概要

防疫対応の根拠となる法律・指針

- 家畜伝染病予防法（施行令、施行規則）
伝染病発生の届出、移動制限、殺処分等を定める
- 高病原性鳥インフルエンザに関する
特定家畜伝染病防疫指針
- 県で設定する防疫対策指針

奈良県高病原性鳥インフルエンザ防疫対策本部設置要綱

奈良県高病原性鳥インフルエンザ現地対策本部防疫マニュアル

本県での発生及び本県の一部が 移動制限区域内に入った場合の組織体制

県初動本部
県対策本部
本部長：知事

対策総括

連絡会議

議長：畜産課長

- ・防疫対策の統括
- ・情報収集・分析
- ・県民への情報提供
- ・県民の健康管理
- ・鶏卵・鶏肉の安全確保
- ・生産者への支援
- ・被害の防止、予防

現地防疫対策本部
(家畜保健衛生所)

本部長：家保所長

防疫業務およびまん延
防止に関すること

市町村防疫対策本部

本部長：市町村長

①発生地市町村対策本部

②隣接市町村対策本部

- ・住民不安の解消
- ・県本部、現地班と連携
- ・防疫業務

高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う措置

養鶏農家で異常鶏発生

現地確認
病性鑑定

家畜保健衛生所

通報

簡易キット検査・PCR検査・ウイルス検査

陽性

警察
農協
関係団体

連携

動物衛生研究所で
確定診断

高病原性鳥インフルエンザの疑い

防疫組織の設置

県対策本部 畜産課内

県対策本部連絡会議 畜産課内

現地対策本部 家畜保健衛生所内

市町村防疫対策本部 ①発生地市町村 ②隣接市町村

防疫措置準備

初動防疫

検診

ウイルス型確定

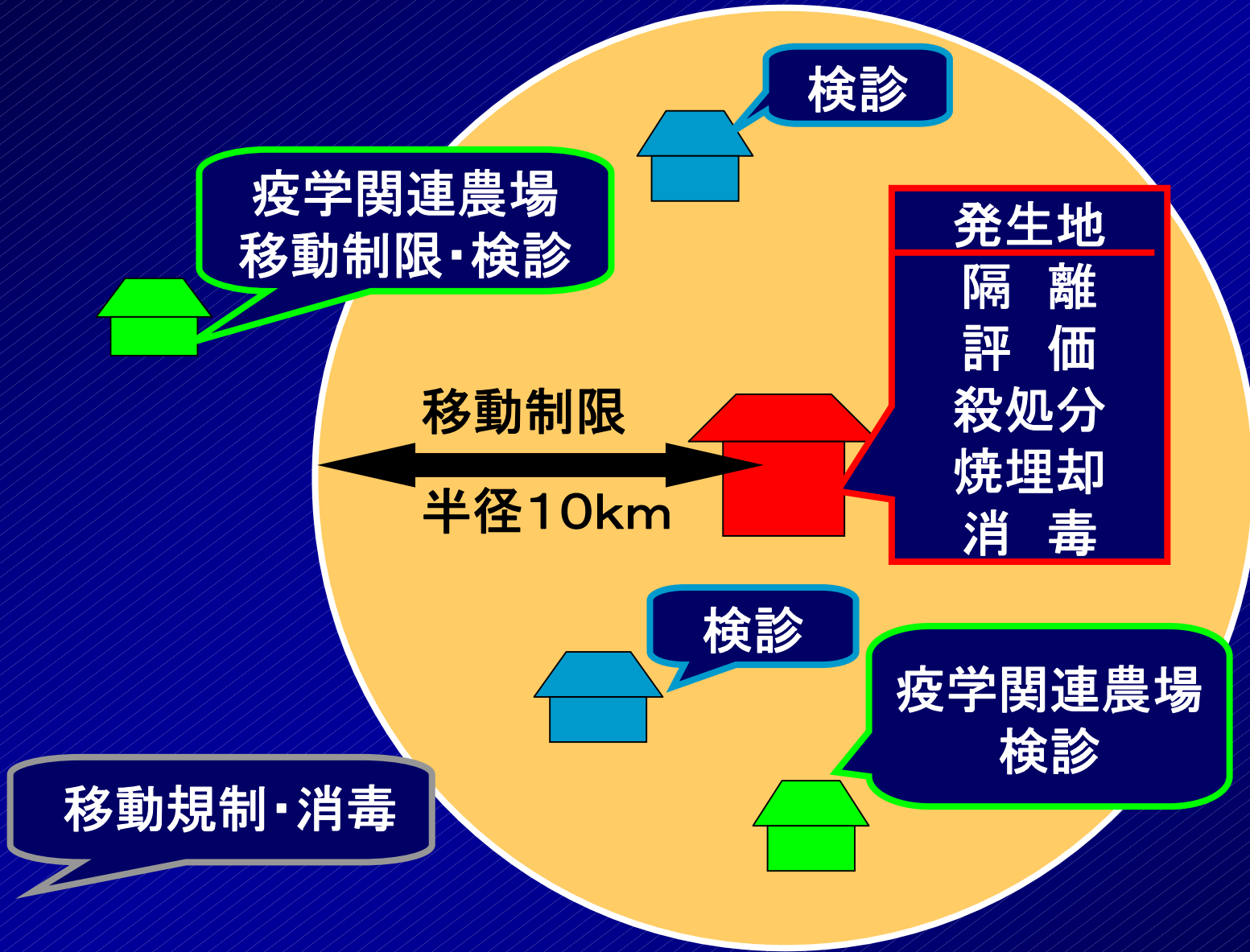
高病原性
鳥インフルエンザ患畜確定

高病原性鳥インフルエンザ発生告示

殺処分命令 知事

発生地防疫措置 追跡調査 移動規制 検診(清浄性確認検査)

移動制限区域と防疫措置



防疫対応スケジュール

経過日数	1日	2日	3日	4~5日	6~8日	防疫措置完了後 21日間	
	初動防疫		移動制限 半径10km				縮小
発生地	通報	移動自粛 立入検査 消毒 追跡調査	HPAI決定 評価	殺処分 焼埋却	消毒	消毒	消毒
周辺	検診		追跡調査	移動規制・消毒		検診	検診
	病性鑑定						

防疫措置完了

移動制限解除



初動防疫

発生農場の想定

農家名 I 養鶏場

所在地 奈良県大和郡山市

飼養形態 セミウィンドウレス鶏舎 (1号鶏舎)

低床開放鶏舎 (2号鶏舎)

飼養状況 採卵鶏 合計 約20,000羽

100日令導入

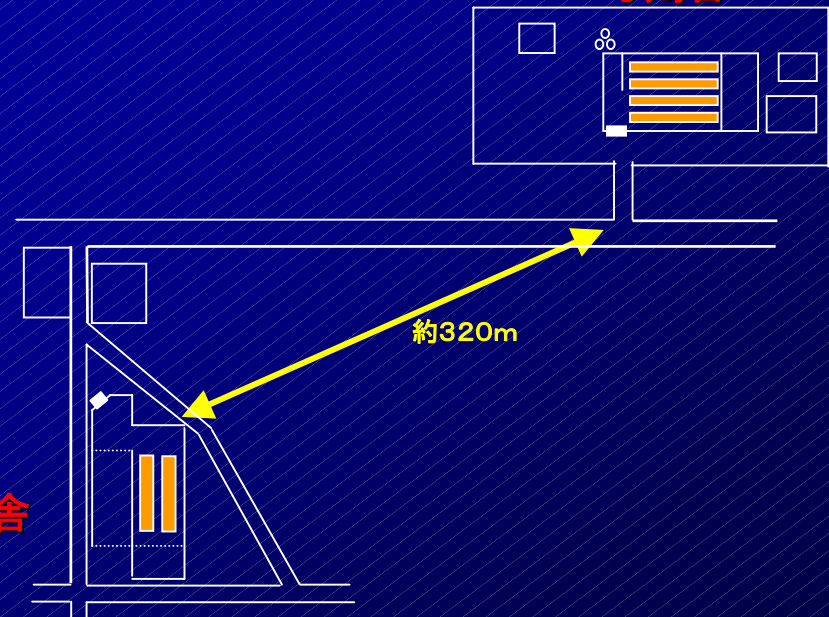
10km圏内 鶏飼養者

養鶏農家 13戸

小規模鶏飼養者 38戸

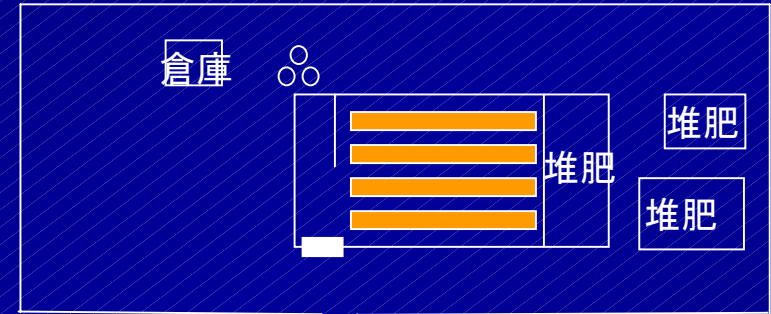
1号鶏舎

2号鶏舎

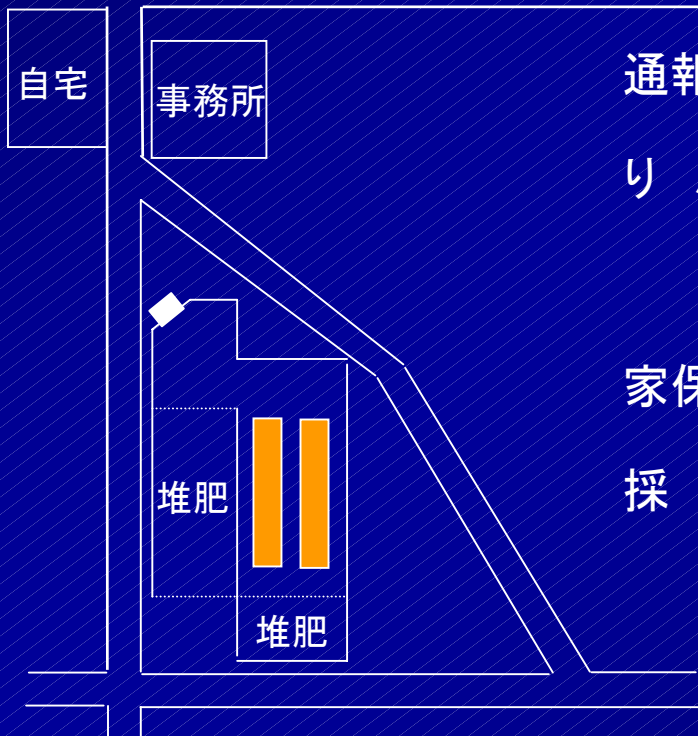


農場の見取図と発生状況(想定)

2号鶏舎(低床鶏舎)



1号鶏舎(セミントウレス鶏舎)



通報日時：12月1日 AM8:30家保に電話連絡

りん告：1号鶏舎で死亡鶏が増加

今朝、2号鶏舎でも多数死亡

家保立入：12月1日 AM9:20 聞き取り、臨床検査

採材：(死亡鶏)各鶏舎5羽ずつ持ち帰り

(異常鶏)気管スワブ、クアカスワブ、血液

を各鶏舎5羽ずつ鶏舎内で採材

病性鑑定の流れ

発生農場



家保(病性鑑定班)

聞き取り調査、臨床検査、採材

簡易キット検査

PCR検査

発育鶏卵接種

+

-

+

-

+

-

+

-

+

-

+

-

動物衛生研究所

最終判定
彙集試験

ニューカッスル検査
高病原性鳥インフルエンザ確定
(患畜決定)

防疫組織
立上

防疫措置開始

防疫組織

(県本部の指示等により立ち上げ)



隣接府県及び
県内市町村本部
(3市9町)
(京都府)

県本部
(県庁)

発生地市町村本部
(大和郡山市役所)

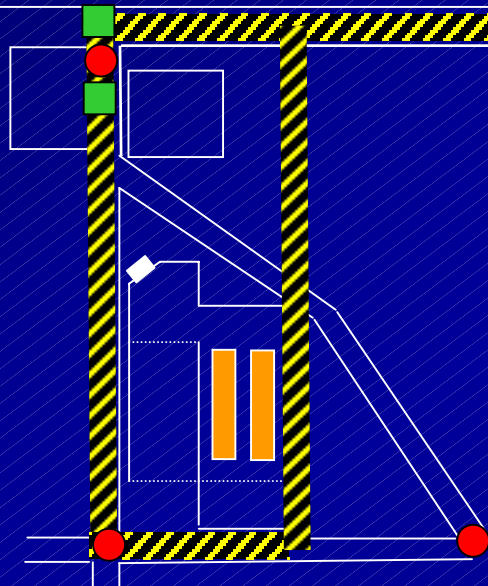
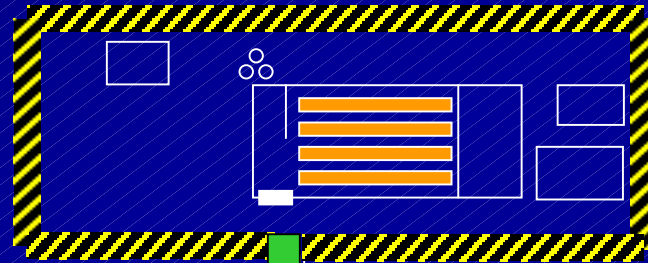
現地本部
(家畜保健衛生所
業務第1課)



5km

立入制限区域の確保



農場入り口での車両の消毒



項目	目的と内容	設置場所	従事者 / 1ヶ所
標識ロープ 	区域境界の明示 関係者以外の進入制限	区域境界	
監視所 	立入禁止看板設置 関係者以外の通行制限	1号鶏舎: 3ヶ所 2号鶏舎: 1ヶ所	防疫補助員2名
消毒場所 	移動車両、区域内作業者の消毒	1号鶏舎: 1ヶ所 2号鶏舎: 1ヶ所	家畜防疫員1名 防疫補助員2名

* 防疫補助員とは、家畜防疫員以外の県職員および市町村職員

処分方法の検討

- 処分物品の種類、量の調査

- 埋却？

- 溝の規模算出

- 埋却に適した場所の選定

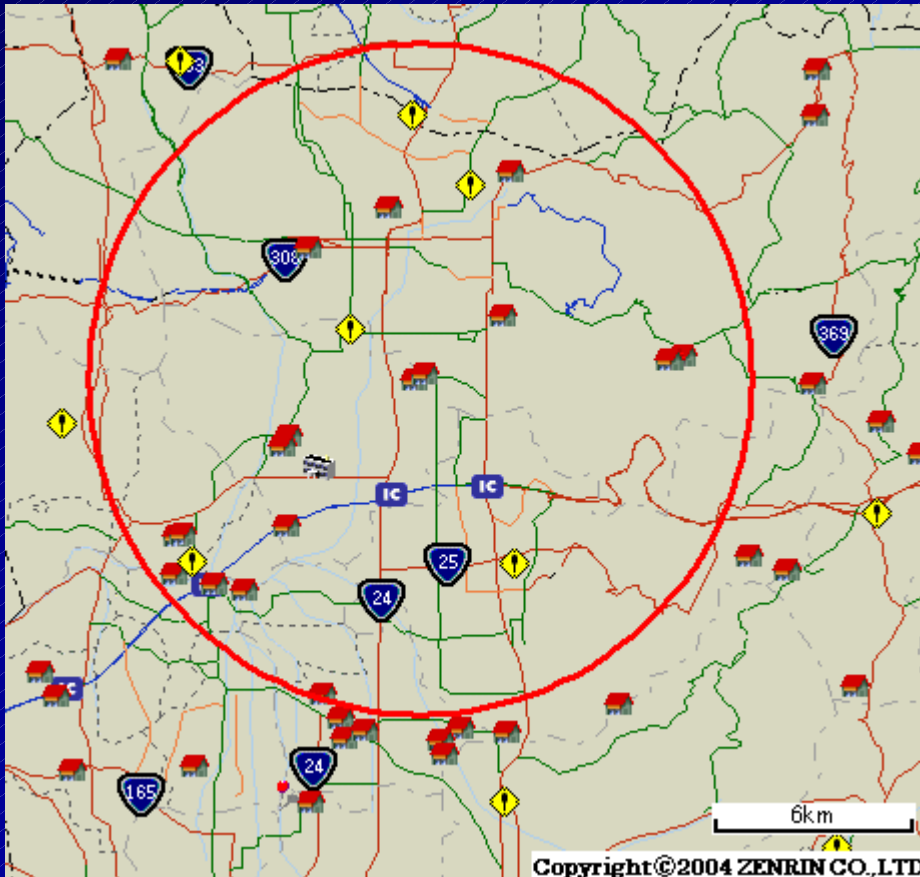
- 焼却？

- 焼却炉の選定

地元住民との協議

消毒ポイントの設置準備

- 場所の選定と設置
- 動力噴霧器の確保



- ①京奈和自動車道 木津インター付近
(奈良市または京都府)
- ②阪奈道路 富雄インター付近
(生駒市)
- ③西名阪自動車道 法隆寺インター付近
(河合町)
- ④国道24号線 千代北交差点付近
(田原本町)
- ⑤国道169号線 柳本付近
(天理市)
- ⑥名阪国道 福住インター付近
(天理市)

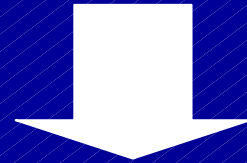


追跡調査

なぜ追跡調査か？

目的

いち早く、発生農場と関わりのあった農場や施設を特定。



しかるべき措置をとり、ウイルスが他の養鶏場に蔓延しないようにする。

方法

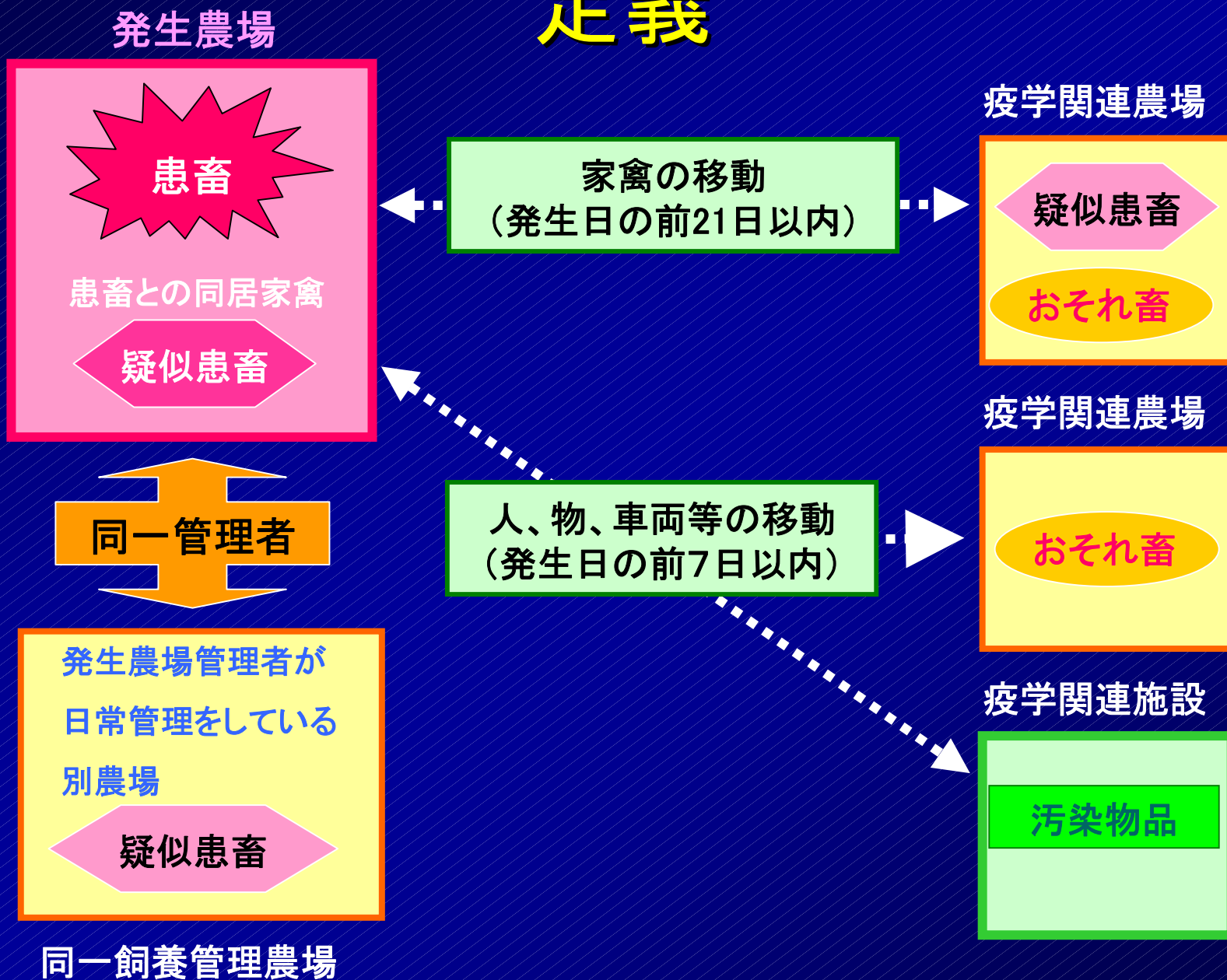
聞き取り調査票、物品伝票

従事者

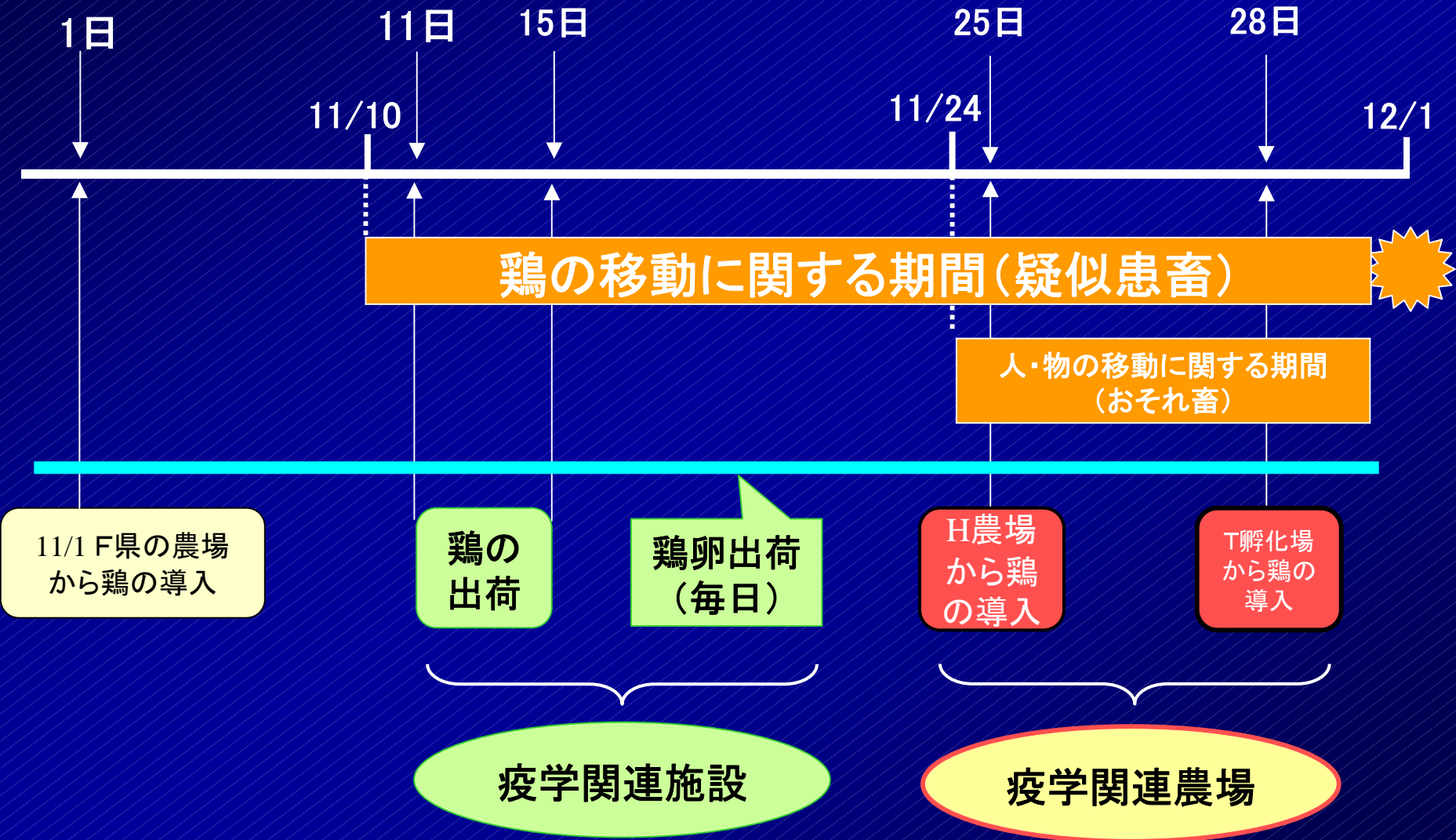
発生地班
(家畜保健衛生所)



定義

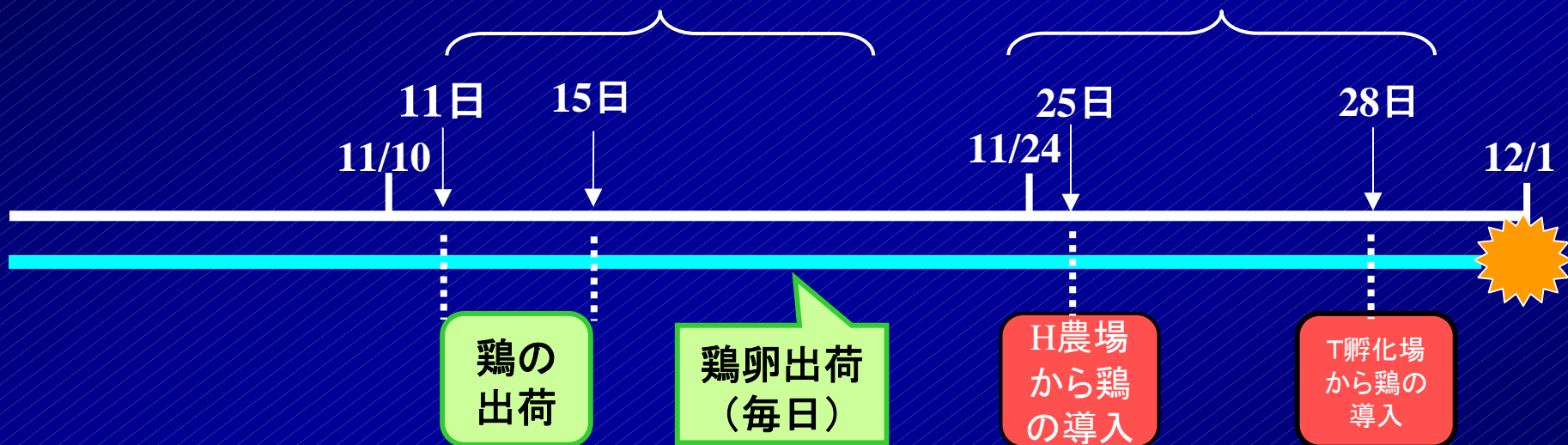


I 養鶏場での出来事



疫学関連施設

疫学関連農場



既に食用処理されているために
汚染物品にはならない

- ### 疫学関連農場における重要事項
- ①発生農場へのお荷鶏群以外に同居鶏群がいたかどうか
 - ②納品従業員の動向等を調査

さらなる追跡

H農場

- ①納品鶏群以外に同居鶏群はいなかった。
- ②11/25以降、H農場からの他の養鶏場への出荷はなかった。

T孵化場

大雛

大雛

おそれ畜

T養鶏場

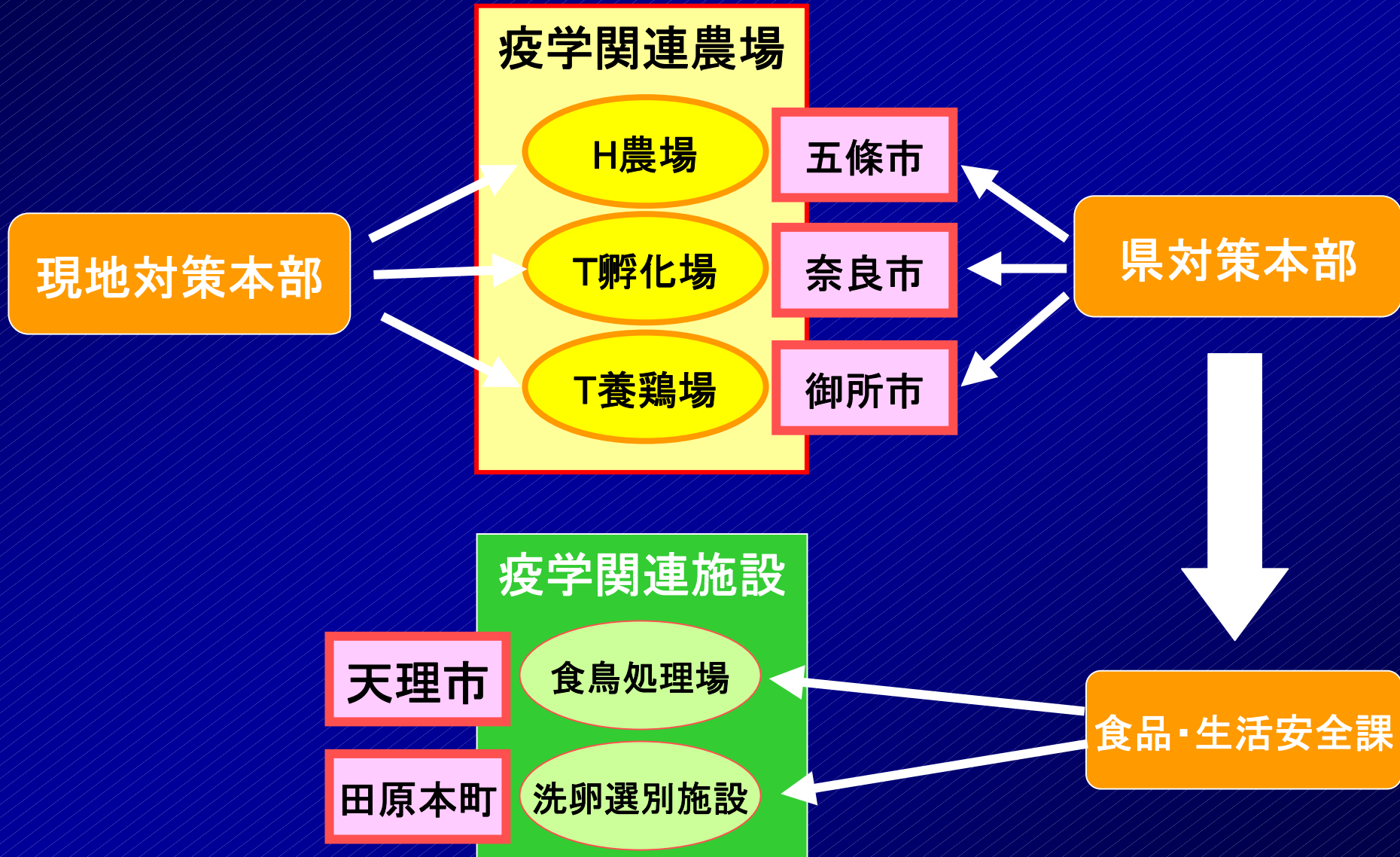
隔離

検査

出入口消毒

普通の農場

追跡調査連絡体制





移動規制

移動規制に関わる措置内容

1. 病原体をひろげるおそれのある物品の移動の禁止（生きた家きん、死亡した家きん及び家きんの卵、飼養管理に必要な器材、飼料、排泄物等）
2. 品評会等の家きんを集合させる催物の開催の禁止
3. 食鳥処理場、GPセンター、孵卵業務等の施設の閉鎖
4. 消毒ポイントの設置
5. 鶏卵保管場所の指示

消毒ポイントの措置内容

- 病原体の拡散を防止するため移動制限区域内を移動する関連車両を消毒
- 消毒ポイントの設置場所
幹線道路でかつ飼料運搬車両等、畜産関連車両の使用する道路沿いに設置

消毒ポイントでの作業内容

班編成 移動制限班・市町村職員
1班3人体制
実施個所数 6カ所

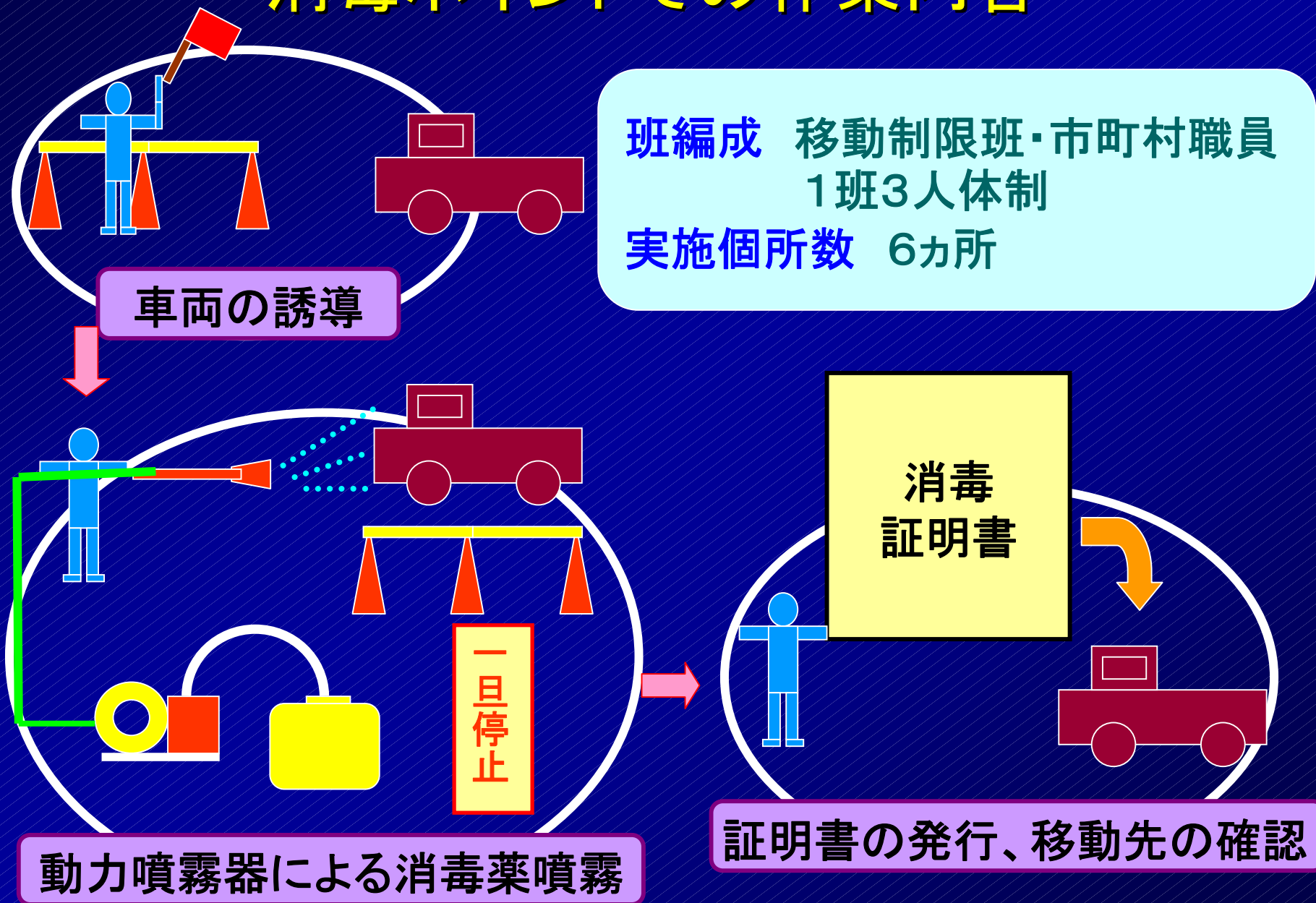
車両の誘導

消毒
証明書

証明書の発行、移動先の確認

動力噴霧器による消毒薬噴霧

一旦停止



移動制限に対する助成措置

家伝法第60条2項

鶏卵関係

1. 出荷制限による卵の売り上げ減少額
2. 保管に要した費用(運送費、保管費)
3. 販売困難で処分した焼却、埋却、化製費

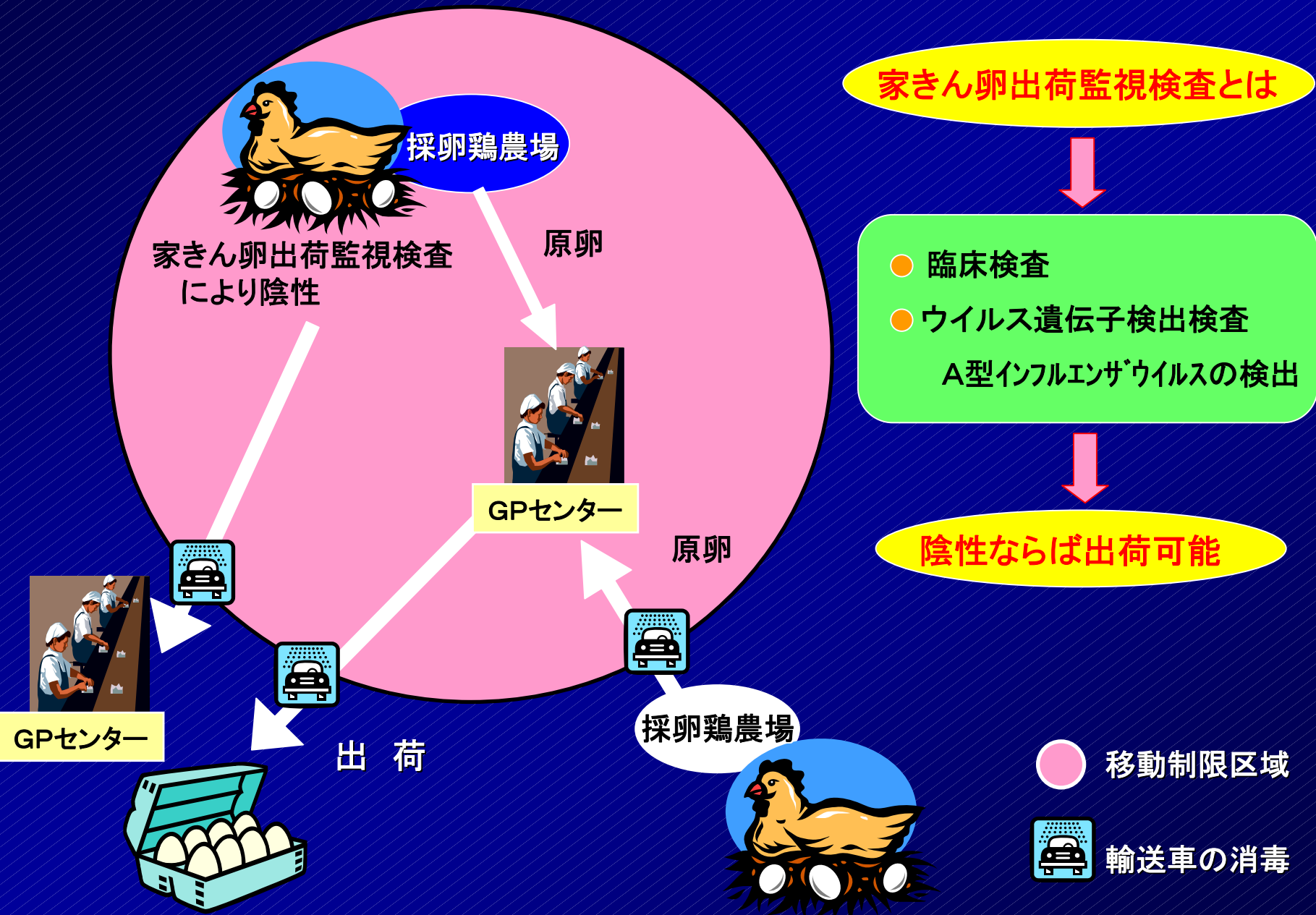
鶏肉関係

1. 出荷遅延による売り上げ減少額
2. 出荷予定日から実出荷日までの飼料代
3. 販売困難で処分した焼却、埋却、化製費

制限区域の例外 (例)

※発生状況、清浄性の確認状況、搬出・搬送・搬入時及び移動先における病原体の拡散防止措置の状況等が勘案されます。

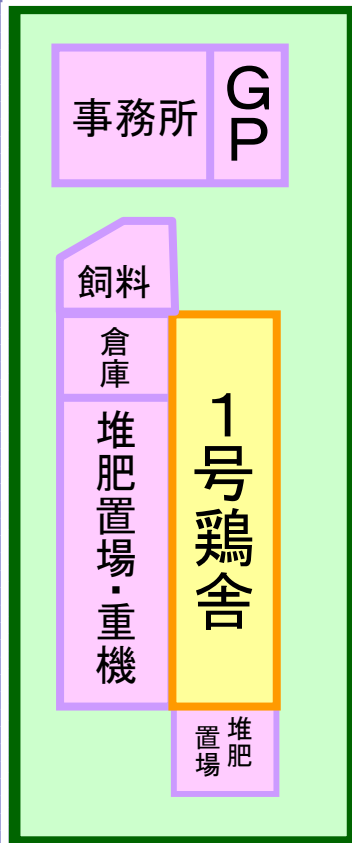
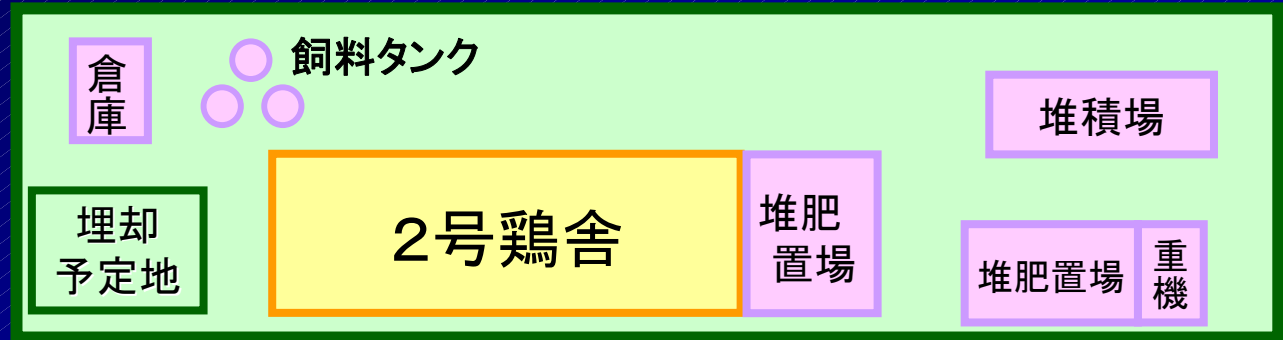
採卵鶏農場(鶏卵):GPセンター等関係





発生農場の消毒

発生農場の消毒



家畜防疫員および防疫補助員
3名／班、動力噴霧器8台

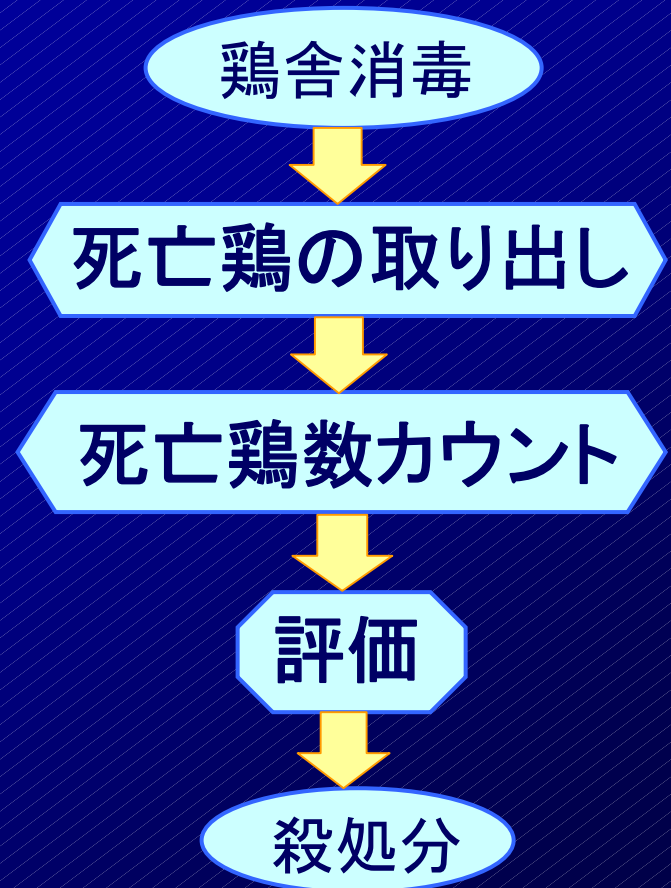
- 鶏舎 } 逆性石鹼噴霧
- 施設 } 逆性石鹼噴霧
- 埋却地 } 消石灰散布
- 敷地内 } 消石灰散布



評 価

死亡鶏数のカウント

殺処分・評価に先立ち、死亡鶏羽数をカウント
家畜防疫員8人、防疫補助員16人



評価の目的と評価人

目的

殺処分家畜および汚染物品に対する手当金額の決定

班の構成：評価人（家伝法施行規則第60条）

家畜防疫員（畜産技術センター課長）	1名
地方公務員（郡山市農林課長）	1名
畜産業経験者	1名

計	3名
---	----



殺処分・除糞等汚染物品処理

殺処分、除糞→埋却

(1) 殺処分

殺処分は原則として鶏舎内で行う

殺処分は二酸化炭素ガスによる窒息により行う

(2) 死体の処理

農場において死体を焼埋却する

焼埋却方法の検討は、土質、地下水及び水源との関係等について、公衆衛生部局・市町村・地元住民等と事前に十分協議する

埋却溝の深さは4～5mとし、家きん死体の上は2mの覆土を行う

(3) 汚染物品の処理

焼却、埋却又は消毒を行う

殺処分的人员構成(1日分)

指示監督 (家畜防疫員)

2日間

1人/鶏舎 × 2 鶏舎 = 2人

鶏取り出し・運搬班 (家畜防疫員及び防疫補助員)

4人/班 × 4班 × 2交替 = 32人

ガス班 (家畜防疫員及び防疫補助員)

3人/班 × 2班 × 2交替 = 12人

作業者サポート (防疫補助員)

3人/鶏舎 × 2 鶏舎 × 2交替 = 12人

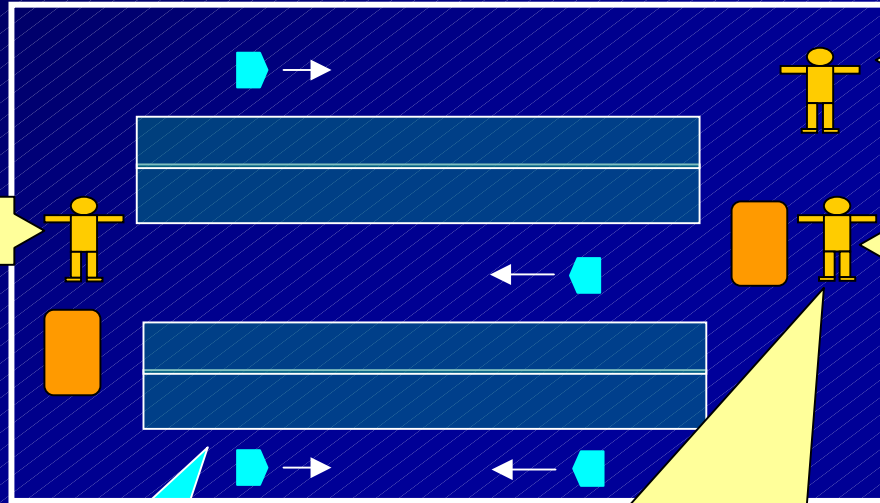
殺処分の方法

1号鶏舎

ガス班

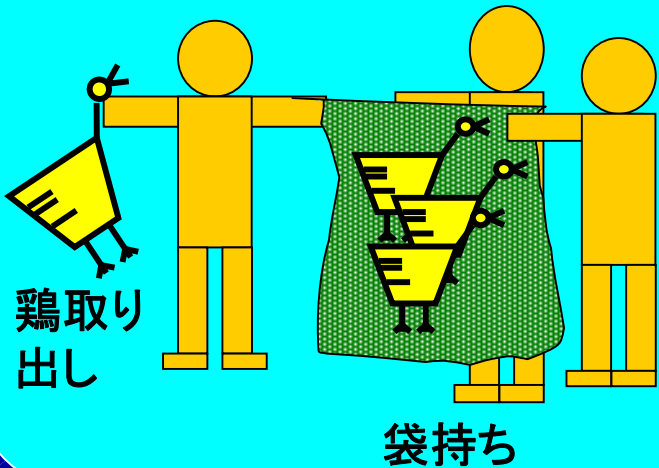
指示監督

ガス班
(3人/班 × 2班)



鶏取り出し・運搬班
(4人/班 × 4班)

袋に5羽ずつ入れる (3人)

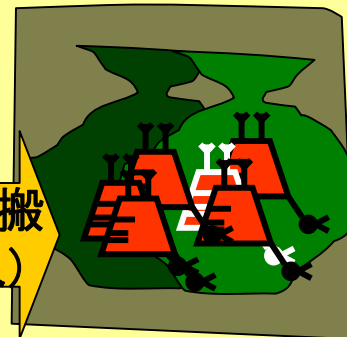


袋に二酸化炭素を注入し、フレコンバックに入れる (2人)

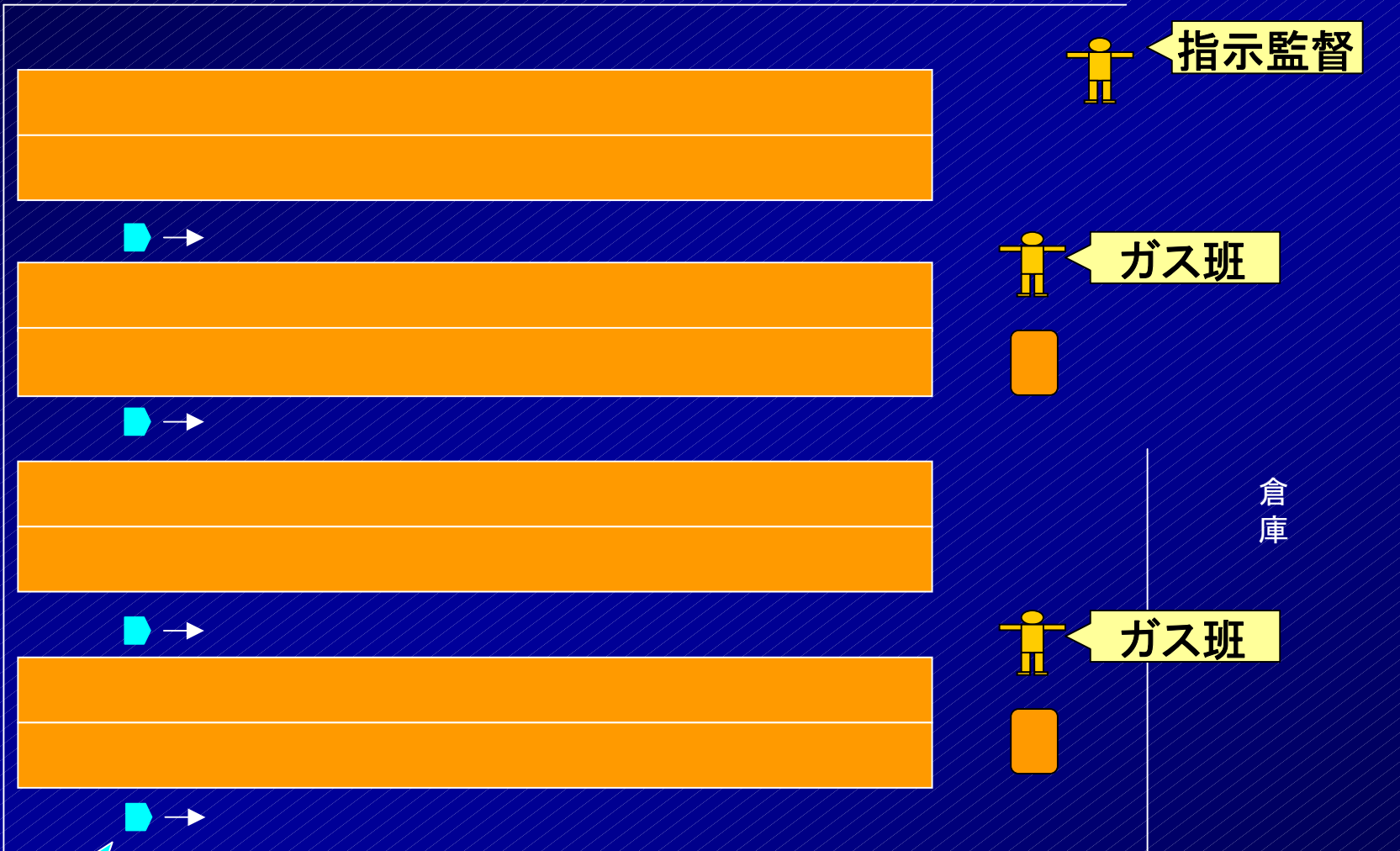
フレコンバック



+運搬
(1人)



2号鶏舎



指示監督

ガス班

ガス班

倉庫

鶏取り出し・運搬班

除糞などの人員構成（1日分）

除糞作業（家畜防疫員及び防疫補助員）

15人/鶏舎 × 2鶏舎 × 2交替制 = 60人

フォークリフト
クレーン付き2tトラック

× 2日間

飼料除去作業（家畜防疫員及び防疫補助員）

タンク班：5人

その他：10人

× 1日間

集卵作業（家畜防疫員及び防疫補助員）

6人

× 1日間

焼埋却の人員構成（1日分）

指令役（家畜防疫員）

2人

技術者（防疫補助員）

20人

×4日間

使用重機

パワーショベル

クレーン

クレーン付き2tトラック

ブルドーザー

フォークリフト

トラック

処分量

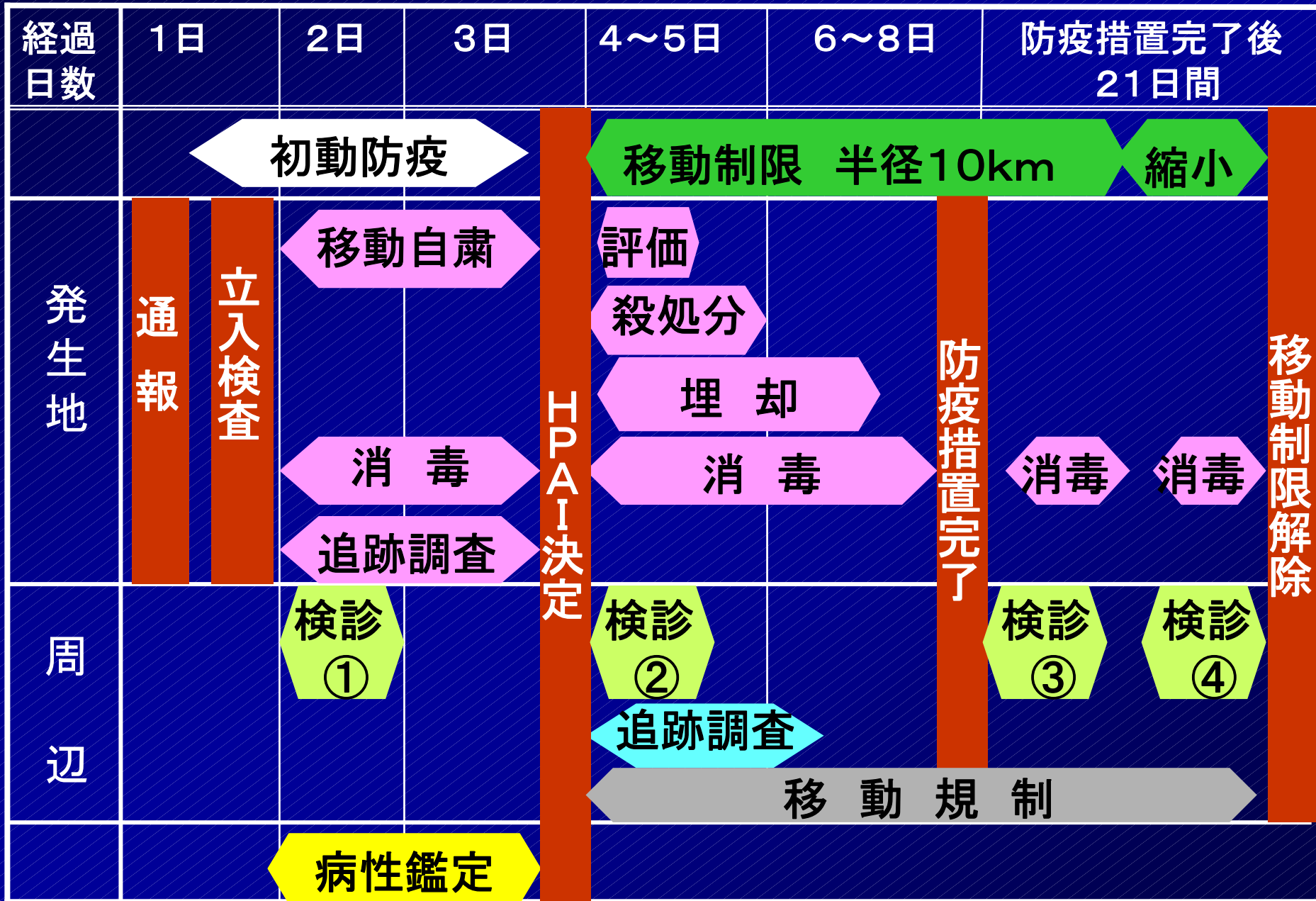
処分物	処分量	フレコンバック数
鶏	18,500羽	93
鶏卵	7t	14
飼料	20t	40
鶏糞	9t	18
堆肥	50t	100
その他の汚染物品	3t	6
合計	18,500羽+89t	271袋

(200羽/フレコンバック、0.5t/フレコンバックとして換算)

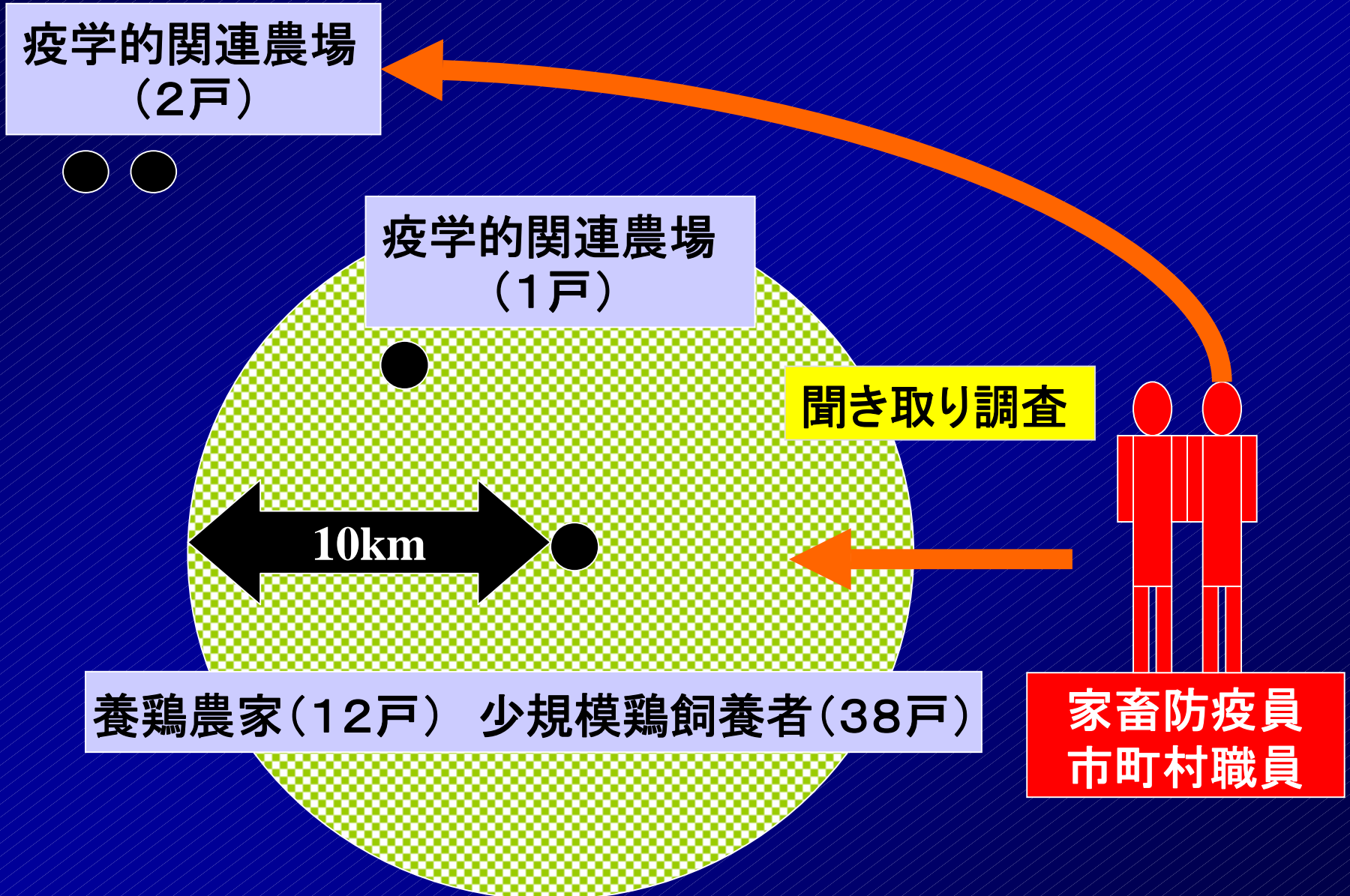


検 診

防疫対応スケジュール



検診① 疑い事例発生直後



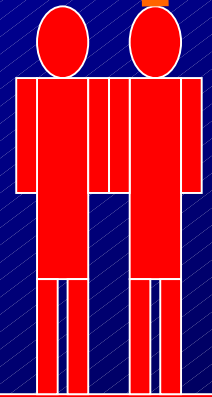
疫学的関連農場
(2戸)



疫学的関連農場
(1戸)

聞き取り調査

10km



家畜防疫員
市町村職員

養鶏農家(12戸) 少規模鶏飼養者(38戸)

検診要領

根拠: 法第51条の規定

期間: HPAI決定後

対象農場: 移動制限区域内の家禽など飼養農家
および小規模飼育者
移動制限区域外の疫学的関連農場

検診内容

立ち入り検査・聞き取り調査

異常の有無確認

採材(気管粘液・クアスワブ・血清)

鶏の導入状況・関連業者の立ち入り状況

指導

移動制限の徹底、関連業者の立ち入り制限

消毒の実施、野鳥・野生動物の侵入対策

経過観察・異常発見時の早期連絡

検診② HPAI決定直後

疫学的関連農場
(2戸)

県内養鶏農場(78戸)
小規模鶏飼養者(104戸)

疫学的関連農場
(1戸)

立ち入り検査
聞き取り調査

聞き取り調査

移動制限
10km

養鶏農家(12戸)

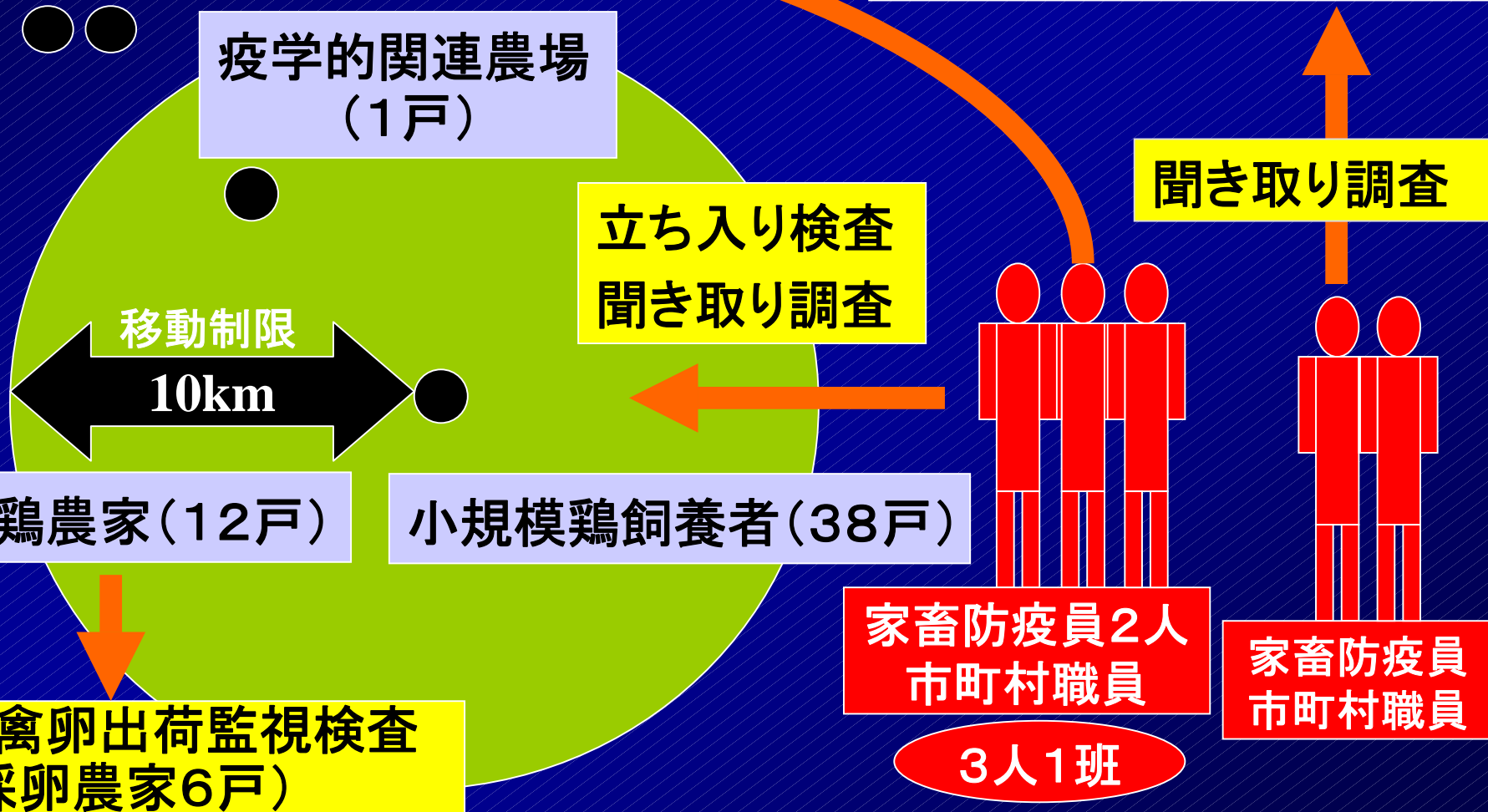
小規模鶏飼養者(38戸)

家畜防疫員2人
市町村職員

家畜防疫員
市町村職員

家禽卵出荷監視検査
(採卵農家6戸)

3人1班



検診③ 第一次清浄性確認

防疫措置完了直後に行う

県内養鶏農場(80戸)
少規模鶏飼養者(104戸)

立ち入り検査
聞き取り調査

立ち入り検査
聞き取り調査

移動制限
10km

養鶏農家(13戸) 少規模鶏飼養者(38戸)

家畜防疫員
市町村職員

2人1班

家畜防疫員
市町村職員

2人1班

移動制限区域
の縮小

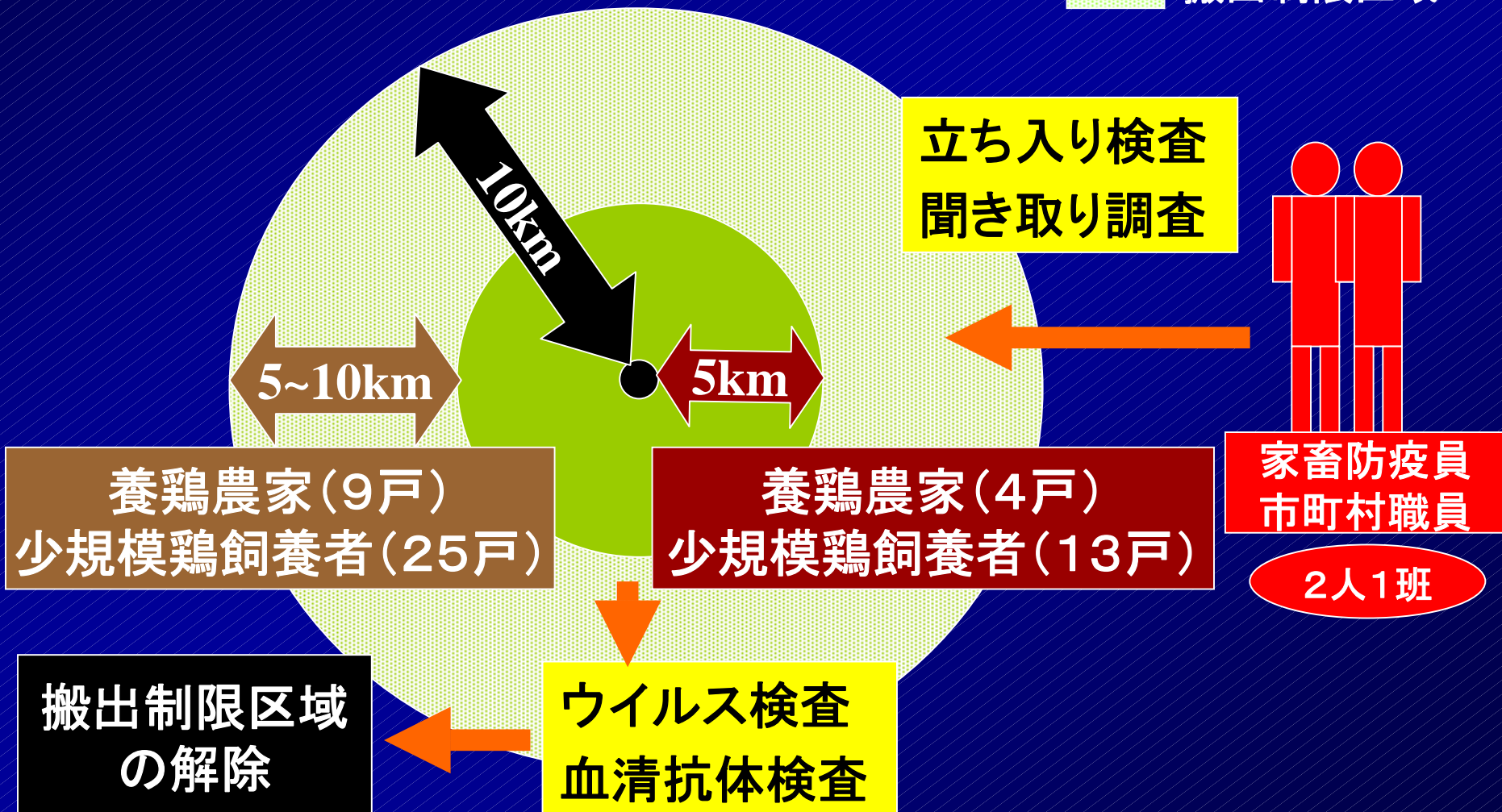
ウイルス検査
血清抗体検査

検診④ 第二次清浄性確認

防疫措置完了後約10日目以降

移動制限区域

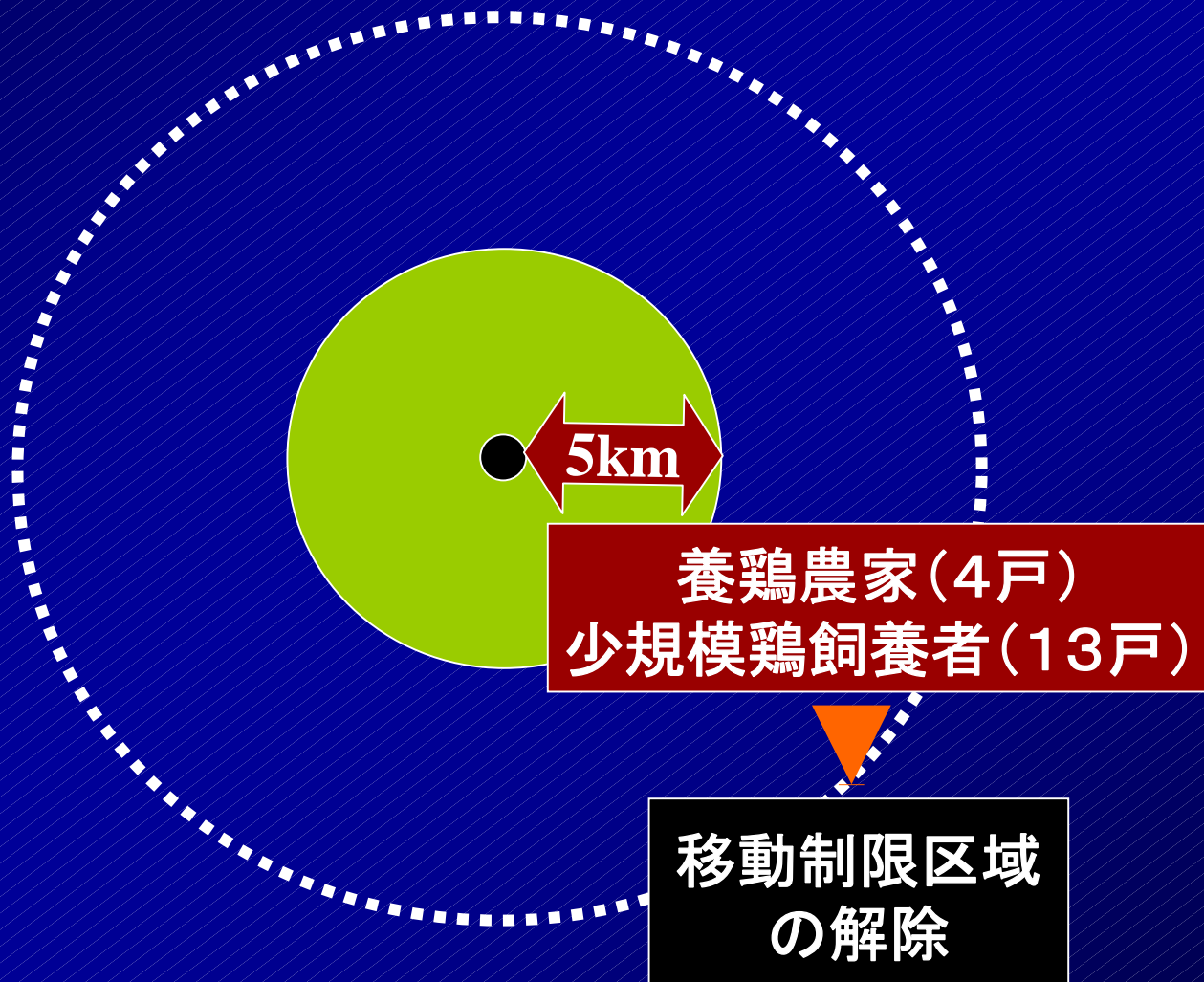
搬出制限区域



検診④ 第二次清浄性確認

防疫措置完了後約21日目以降

移動制限区域



移動制限解除後

- ・移動制限区域内の農場の監視(原則3ヶ月間)
- ・家禽飼養者から死亡羽数などの状況報告
- ・ウイルス検査実施(少なくとも1回)

発生農場の経営再開

- ・鶏舎からのウイルス分離検査
- ・モニター家禽の導入
→清浄性確認後経営再開

農場段階における予防対策

- 防鳥ネットの設置による野鳥等の侵入防止
 - 給水には水道水か消毒済みの水を使用
- 部外者の立入制限(原則入れない、自分も行かない)
 - 訪問者の記録(日時・氏名・どこから来たか等)
 - 消毒等の一般衛生管理の徹底
 - ・農場、鶏舎、来場車両の洗浄、消毒の徹底
 - ・鶏舎毎に踏込消毒槽の設置及び専用長靴の配備
 - ・ニューカッスル病ワクチン接種の徹底

異常鶏の早期発見、早期通報！！